

さくら新聞

発行者：NPO法人
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL:083-258-0143
FAX:083-258-5910
http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura
Eメール：misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp

今年もよろしく

お願いします。



維持管理部長
江原 寛治

さくら友の会が設立されて間もなく満7年になります。発足当時、ひ弱に見えた苗木が見違えるほど成長し、世話して来た会員たちは、花の時期も、葉桜も、それを見上げて誇らしい気持ちになっていきます。苗木が隠れるほど、丈高く繁茂していた雑草は、毎年の手入れで、草刈の頻度を減らせるまでになりました。市民にも、桜の名所としての認識が高まり、年々花見客も増えてきています。

日でも、手弁当で、ほとんど日参して忍耐強く整備を続けて来られた有志の方々は、私達の誇りです。「春には桜、秋には紅葉」のスローガンが実現して感慨深く思います。発足当時、このようなボランティア活動が、果たして継続できるだろうかと思わなかった人はいないでしょう。しかし、300人を越える賛助会員と会員に支えられて、今も確実に成長し安定した活動を継続できていることは奇蹟のように思えて喜びに耐えません。深坂が呼んでいます。桜が招いています。想像するだけで、うずうずしてきてやる気が湧いてきました。今年も元気に深坂で汗を流し、共にうまい食事にありつき、大いに笑いましょう。

「マイペースで楽しくゆつくり」でいいのです。

平成二十五年の活動開始
1月13日9時、深坂自然の森の、森の家下関に48名が集合した。今年の仕事初めです。上島副理事長の司会で、福富理事長、梶山響灘ライオンズクラブ会長、野口広報部長、江原維持管理部長、上島会員交流部会長から挨拶や、お知らせがあつた後、いつものように和泉理事の指導で準備体操。記念撮影。そして初仕事開始。

作業は天狗巢病の枝の除去。4方面に分かれて着手。切除した枝は、3台の軽トラックで集めて結束して整理。後は市の処理に委ねる。これをストーブの燃料にしたいので分けて欲しいといわれた市民も過去にはあつた。そういう処理の仕方もある。作業後は、豚汁とオニギリ。味付けは味噌と愛情。和やかなスタートだった。



山茶花
もみじ谷の道筋に、赤い花が一杯咲いて居た。山茶花だろう。



比較の為、椿を探した。未だ早過ぎるのか、なかなか見当たらない。林の中で見つけた。地上にぽたぽたと花が落ちていた。山茶花は花卉で散る。



桜四方山

今年の桜研修旅行は琵琶湖周辺の名所旧跡中心の二泊三日に決まった。会員交流部会の方々のご苦労が偲ばれる。皆で心からの感謝の拍手を送りたい。京都、滋賀の辺りに、名所も多く割愛するに苦労されたことだろう。三井寺、比叡山延暦寺、根尾の淡墨桜などはいずれも一三〇〇年以前の歴史に登場する。

根尾の淡墨桜などは、たつた一本のヒガンザクラだが、一五〇〇年間もその時々生きていた人々の目に触れ、感慨を抱かせてきたに違いない。聖徳太子は見ただろうか、紫式部は見ただろうか。名立たる武将たちは。あるいは芭蕉は。この一本の木を彼らも今共に見上げている図を想像することができようか。桜などというつを抜かす暇はないと言う武将がいるかもしれない。もののあわれを解さぬ武士は眞の武士に非ずという侍もいるかもしれない。敷島のやまと心を人間わば朝日に匂う山茶花(本居宣長)。一本の桜の木の前に立たずむとき時、わたしは日本人の心を養われて行くのかもしれない。あゝサクラ、さくら、桜。